

創 立 5 8 周 年 を 迎 え て

盛岡中央高等学校・附属中学校
校 長 千 葉 研 二

龍澤学館の創立記念日は9月17日、高校は今年で創立58年目となります。

盛岡中央高等学校は、初代校長龍澤福美先生が「独立進取」「研鑽努力」を建学の精神とし、盛岡市高松に龍澤高等学校として1963年4月に開校されました。翌年には、現在地の観武ヶ原に校舎を移し、以後時代の変化に対応しながら発展を遂げ、この度創立58周年を迎えるに至りました。

その間、開校当初の普通科に加えて自動車科、情報処理科を設置、更に1989年以来三度に亘る校舎の増改築により教育環境の整備に努めるとともに、1992年には一層の飛躍を期して校名を盛岡中央高等学校と改めました。そして2004年4月には単位制（通信制課程）を設置、また、2018年4月には永年の念願でありました附属中学校を開設して中高一貫6年教育を開始し、現在は全日制・通信制併置の東北屈指の私立普通科高校として、地域はもとより本県教育の発展に大きく寄与しております。

特に、カナダ修学旅行や短期・長期の留学研修の実施に取り組む中、国際姉妹校は15の国と地域にわたる26校を数えるまでになり、1999年に第1回「CHUO国際教育フォーラム」を開催して以降、姉妹校の生徒、引率教師等の招待者は1,166名に上っています。このように、様々な国際教育交流事業の活発な展開を通じて、グローバル社会に通用する人材の育成に力を入れています。

また、文部科学省が示した施策「GIGAスクール構想」に先んじて、2019年度には「一人一台iPad」を実践し、授業や総合的な学習の時間、部活動など、様々な場面で活用しています。これは、今後来るデジタル革新による高度情報化社会を見据えて、生徒一人一人が情報を主体的に使いこなす能力(情報リテラシー)を育て、学習能力の向上を目標としています。

更に、文部科学省が国際的に活躍できるグローバルリーダーを育成するスーパーグローバルハイスクール(SGH)のアソシエイト校(協力校)として取り組んで参りましたが、本年度、念願のSGHネットワーク校(全国111校、県内2校)に認定されました。

今春の進学においては、一橋大、東京学芸大、慶応大、早稲田大、明治大、法政大、学習院大、東京理科大などの難関大学にも合格し、国公立大80名、私立大337名、短大13名、専門学校122名、海外進学2名と素晴らしい実績を残し、名実ともに私学の雄として県内進学校に位置づけられるものとなっています。

また、部活動においても、男子柔道部、男子ソフトボール、ゴルフ、スキー部の全国大会出場など、大いに成果を上げております。中でも、スキージャンプで世界チャンピオンの小林陵侑選手をはじめ、ゴルフの米澤蓮選手、スポーツクライミングの伊藤ふたばさん、プロ野球楽天イーグルスの銀次選手など、卒業生の活躍は誇らしい限りです。

さらに、開校以来着々と他に誇り得る堅実な校風の下で育ち、視野が広く豊かな教養を身につけた12,789名にも及ぶ卒業生が、県内外に於いて社会の有為な人材として活躍しておられます。

この9月17日の創立記念日に当たって、建学の精神を改めて想起し、初代龍澤校長先生が生徒に述べられていた「人は考え、それを実行に移し、そして省みること」と「素直な心になって物事を行うこと」との指針を振り返ることが意義深いものと思います。

結びに、更なる歴史の創造と発展を期して努力し励むことを、教職員、生徒の皆さんと共に誓い合う記念の日といたしたいと思います。

令和3年9月17日